



脳卒中について



脳神経外科 毛利 正直



脳卒中とは、何らかの原因で脳血管が破綻し、突然に意識がなくなったり、半身の動きが悪くなったり、言葉がしゃべれなくなるなどの症状が出現する疾患です。脳卒中を分類すると脳血管がつまってしまう脳梗塞に代表される虚血群、脳血管がぎれてしまう脳出血やくも膜下出血などの出血群があります。日本では年間約30万人が脳卒中を発症し、死亡数は癌よりも低いものの、死亡を免れても後遺症、長期の臥床などが問題となり要介護原因の第1位の原因となっています。脳卒中の危険因子として、高血圧、喫煙、糖尿病、脂質異常、心房細動、大量飲酒などがあり、脳卒中にならないためには特に血圧コントロールと禁煙が重要となります。また、脳卒中を発症した後も迅速に診断し治療することが大切で、特に脳梗塞を発症した場合は超急性期治療として発症4.5時間以内投与可能なt-PA静脈内投与やカテーテルによる脳血栓回収療法がありますが5分でも早く治療を開始することが必要で後遺症を

最小限に抑えることが可能となります。脳卒中を発症して2週間以内の急性期治療としては点滴や内服による薬物治療、外科的手術、脳血管内手術、リハビリが行われます。発症2週間以後はリハビリが治療の中心となっていきます。また脳卒中は再発率が高い疾患であり、急性期治療病院と回復期リハビリ病院での治療が終了後も、再発予防の危険因子管理の継続が非常に重要です。



1. 地域連携の会

※6月の地域連携症例検討会は、地域連携の会として下記のとおり行います。

日時：6月19日（水）19：00～21：00 場所：ANAクラウンプラザホテル富山 3階「鳳」

会費：6,000円（参加申込みが必要です。）

内容：（1）講演

「大腸がんの手術～今とこれから～」

富山市民病院 消化器外科部長 寺田 逸郎

ここ10年で、大腸がんに対する手術は開腹術から腹腔鏡下手術へと大きくシフトした。

腹腔鏡下手術の利点は、患者さんに対する低侵襲性ばかりではない。高解像度のカメラやモニターを使用しての拡大視効果は、従来の手術では見えなかった、細い血管・神経・膜構造などの解剖を鮮明に認識することが可能となったことで、われわれ術者側にも大きなメリットをもたらしていると考えている。

今回、当院での現状と新たな取り組み、そして今後の展望につき紹介したい。

（2）懇親会

予告

日時：7月9日（火）19：00～20：15

場所：当院3階 講堂

内容：①ミニレクチャー （担当）麻酔科

②症例検討 2例（呼吸器内科・精神科）



2. 内科CPC

※6月の開催はありません。

3. 緩和医療部会学習会

日時：6月4日（火）17：45～19：15

場所：地域医療研修センター

内容：テレビ会議システムを利用したライフステージ事例検討会

4. 感染予防対策学習会（看護師対象）

※3回ともすべて同じ内容です

日時：6月13日（木）12：15～12：50

6月21日（金）17：30～18：05

6月25日（火）15：00～15：35

場所：講堂

○テーマ：培養について

○講師：看護部感染対策委員（感染対策チーム）

5. 糖尿病研究会定例学習会

日時：6月20日（木）17：45～18：30

場所：看護外来

○テーマ：こんな患者さんに対してどのように対応したら？

○講師：糖尿病看護認定看護師 金盛 佐紀子

6. 褥瘡対策学習会

日時：6月28日（金）17：30～18：00

場所：集団指導室

○テーマ：褥瘡のリスクアセスメントと看護

○講師：看護師 鎌 沙緒里

7. NST学習会

日時：6月24日（月）17：30～19：00

場所：講堂

○テーマ：①栄養スクリーニング・アセスメント

②必要エネルギー量算出

③血液検査項目

○講師：①看護師 荒江 陽子

②管理栄養士 稲葉 美寿々

③臨床検査技師 堀江 妙子

8. 富山地域リハビリテーション研修会

日時：6月13日（木）18：00～19：00

（受付17：30～）

場所：講堂

○テーマ：骨粗鬆症の予防と治療
～薬剤師の視点から～

○講師：薬剤師 骨粗鬆症マネージャー

萩行 正博

9. 看護研修

※衛星研修は、予約申込みが必要です。ふれあい地域医療センターへご連絡ください。

（TEL076-422-1112代表 内線2989）

《衛星研修S-QUE Eナース》

○テーマ：急変の前兆を見抜く！今こそRRT

視聴期間：6月11日（火）～7月5日（金）

○テーマ：急変とは何か？～C P A リスクの評価を看護師視点で考える

視聴期間：6月25日（火）～7月19日（金）

《衛星研修S-QUE 新特別企画》

○テーマ：病院環境フォーラム

病院機能評価への取り組み2019

視聴期間：6月4日（火）～7月30日（火）

《新任看護職員研修》

○呼吸器管理研修（基礎編）

※定員となったため申込みを締め切りました。

日時：6月6日（木）13：30～17：00

場所：講堂

○救急蘇生

※定員となったため申込みを締め切りました。

日時：6月11日（火）13：30～17：00

場所：講堂





院内の専門職員のご紹介

NST専門療法士について ～薬剤師の役割～

NST 専門療法士（薬剤師）
日本静脈経腸栄養学会認定

黒田 季花、福武 純子



写真左から 黒田季花薬剤師、福武純子薬剤師

NSTはNutrition Support Team（栄養サポートチーム）の略で、NST専門療法士は日本静脈経腸栄養学会が認定し、管理栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、診療放射線技師と様々な職種が取得できます。

平成22年の診療報酬改定で栄養サポートチーム加算が新設され、薬剤師はこの年から栄養サポートチームに加わり、このことがきっかけで栄養について学び、さらに認定取得を目指すようになりました。

日頃の活動としては、毎週決まった曜日にチームカンファレンスを行っており、病棟薬剤師にもできる限りカンファレンスに参加してもらっています。病棟薬剤師は医薬品の適正使用のため禁忌疾患、相互作用、用法・用量、副作用などを確認しており、医薬品であ

る栄養輸液や経腸栄養剤についても確認を行っています。病棟薬剤師の関与が栄養状態の改善に貢献すると思われるので、病棟薬剤師との連携を充実していきたいです。

平成30年5月に厚生労働省から「高齢者の医薬品適正使用の指針」が出され、「ポリファーマシー」が取り上げられています。多剤服用による有害事象が紹介され、食欲低下、便秘、抑うつなどの症候について主な原因薬剤が示されています。ポリファーマシーへの取り組みは栄養状態の改善につながる可能性がありますので、入院中だけでなく退院後も継続されるよう地域と連携することが必要と考えます。

薬剤師が医薬品の適正使用に取り組むことは、栄養状態の改善にもつながるということを示すことができればと思います。

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

6月

科 名	医 師 名	不 在 日	科 名	医 師 名	不 在 日
内 科	大 田 聡	21日、28日	整 形 外 科・ 関 節 再 建 外 科	澤 口	7日、14日、21日、28日
	水 野	7日		五 嶋	13日
	山 口	21日		重 本	7日、28日
呼吸器・血管外科	湖 東	13日		藤 田	14日
	土 岐	21日		片 岡	14日
			小 児 科	橋 本	26日、27日、28日

※その他、急に不在となることがありますのでふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。
TEL 076-422-1112（代）内線 2168

編集後記

昨年度より広報委員会に所属し本誌の企画編集に携わりました、と言っても先輩委員の段取りの良さに圧倒されるばかりで、編集後記の題材としては広報活動についてではなく、私の健康対策の取り組みについて記載させていただきます。

昨年秋口より天候の良い日に限ってですが「自転車通勤を始めたこと」です。最初の頃は体力もなく片道約1時間の行程でしたが日増しに体が慣れてくると約40分まで短縮し、驚いたことはマイカー通勤時間とあまり変わらないことでした。そして何よりも運動不足解消とダイエットすることができ、やせていた時に履いていたズボンが履けるようになったことやガソリン代が家計にやさしくなったことがよかったことと感じています。

しかしながら、冬期とスギ花粉の時期はマイカー通勤に戻したため体重ももとどおりに…。今度は自転車通勤ができない時期の体重維持に取り組まなければと考えています。



放射線技術科 宮田 英喜

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。
送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 / FAX 076 (422) 1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp

